

[抄録様式]

<p>財団法人 8020 推進財団 平成 30 年度 歯科保健活動助成事業報告書抄録</p>
1. 事業名：全国地域で取り組む水道水フロリデーション住民学習活動
2. 申請者名：NPO 法人 日本フッ化物むし歯予防協会 会長 山内 皓央
3. 実施組織：[企画運営] NPO 法人 日本フッ化物むし歯予防協会 [協賛団体] 市民団体：吉川フロリデーション推進会議（埼玉県）、あゆの会（富山県）、長崎フロリデーション協会、北海道子どもの歯を守る会、健康増進ネットワークおかやま、NPO 法人：ウォーターフロリデーションファン、県行政：新潟県、[学術支援団体] 歯科医師会：山梨県歯科医師会、川崎市歯科医師会、富岡甘楽歯科医師会、歯科学会：日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会、歯科大学：鶴見大学歯学部（地域保健学）、神奈川歯科大学大学院（口腔衛生学）
4. 事業概要：水道水フロリデーションの科学に関する正しい情報の提供を昨年度に引き続き実施した。市町村単位の住民学習活動として、吉川市（埼玉県）における市民健康まつりでの水道水フロリデーションに特化した情報提供、高岡市（富山県）において、ロータリークラブとのコラボによる講演会を中心とした水道水フロリデーションを含むフッ化物応用に関する情報提供を行った。また、協賛団体や学術団体の実施組織内では、キーパーソン対象の研修会、資料配布などにより、同様の地域活動が芽生えることを目指し、合わせて、これら活動促進のため学会・歯科大学との連携を持った全国組織活動を昨年度に引き続き行った。
5. 事業の内容： (1) フロリデーションに関する啓発資料の作成と配布：“マンガでよくわかる！水道水フロリデーション？”等 (2) フロリデーションに関する啓発：講師派遣 (3) 地区イベントでの展示ブース：資料配布・市販飲料水のフッ化物濃度測定・歯科相談・ぬいぐるみ「フロリン」の活用 (4) ホームページでのフロリデーション科学情報の提供 (5) 各地域からの相談受付
6. 実施後の評価： 水道水フロリデーションの有用性は、国際的医歯学保健専門機関から公表されているものの、本年度は特に国内の歯科に特化した新聞による水道水フロリデーションに関する不安を煽る情報提供が数回にわたり行われた。そのような中で、一般住民が正しい健康情報を選択する能力が培われる必要があるが、そのための専門家の責任は極めて重大となる。本事業で継続して、住民への情報提供を行ってきたが、その情報から住民は自分にとって有益な情報であり、齲蝕予防にとっての選択肢の一つとして得られた情報を理解し、信頼性の評価を行い、活用（意思決定）と進み行動に移すことが必要である。しかし、情報の一方的な伝達のみで終了していることが否めない。今後、住民が情報に基づいた意思決定により「健康を決める力」（ヘルスリテラシー）に繋げる支援について多面的、多角的に検討する必要があると思われる。加えて、国、歯科医師会、都道府県、政策集団、専門家団体が水道水フロリデーションの実施に向けた取組みが進められるように必要な情報の整理を行うことも重要であると考えられる。